

1. 2005年度収支決算書

(2005年1月1日～2006年3月31日)

	2005年度予算額	2005年度決算額
収入の部		
前期繰越金	1,519,245	1,519,245
2005年度個人会費	650,000	505,000
2005年度学生会費		14,000
2005年度賛助会費	100,000	100,000
2006年度個人会費		325,000
2006年度学生会費		4,000
2006年度賛助会費		100,000
出版物売上	30,000	15,000
雑収入	10,000	103,075
当期収入合計	790,000	1,166,075
収入の部合計	2,309,245	2,685,320
支出の部		
通信費	100,000	130,850
印刷費	50,000	105,263
事務用品費	10,000	13,753
講師謝金	40,000	65,000
交通費	10,000	4,060
雑費	30,000	11,526
本部研究会補助費	70,000	35,750
地方研究会補助費	50,000	37,245
研究分科会補助費	150,000	0
アルバイト謝金	50,000	0
学会誌印刷費	400,000	404,250
前年度未処理分	6,500	6,500
事務所賃貸料	24,000	30,000
当期支払合計	990,500	844,197
次期繰り越し	1,318,745	1,841,123
現金残高		143,862
預金残高		1,697,261
未払い金		0
支出の部合計	2,309,245	2,685,320

2006年3月31日

理事(総務担当) 松本憲洋



上記の会計について監査の結果、適正であることを認めます。

2006年3月 日

監事 松本安生



2006年3月31日

監事 明神 知



5 . 2006 年度事業計画・予算案

5 . 1 2006 年度事業計画案

(2006 年 4 月 1 日 ~ 2007 年 3 月 31 日)

5 . 1 . 1 JSD 研究会

JSD 研究会 (首都圏)

(1) 担当

小池昇司、蓮尾克彦、高橋裕、渡部淳一

(2) 事業戦略

SD の有用性が期待される半面、ユーザーが SD を使いこなせる環境が成熟化しているとはいえず、SD 活用スキルの向上を望む学会員が多い。

そこで、JSD 研究会 (本部地区) では、広い応用分野において会員の SD 活用スキルを高め、満足度の高い研鑽の場と材料を提供する。また、会員以外に対しても SD を理解する場を提供し、新メンバー参加による SD の普及・活性化に寄与する。

事業戦略と、その実現に向けての取り組みを以下に示す。

- 1) SD に関心の高い会員自身に役立つ活動の場を広げ、それに触発され追従する会員の増殖を図る。そのために、本年度の研究会は、システム・ダイナミクスに関する知識と、実践的なモデリング技術の習得を目的として開催する。

SD 活用の活動に関して検討し、相互研鑽による気づきを得て、継続的に活性化する研究会運営を行い、会員のスキルアップを図る。

会員のニーズを満たすようなテーマについての好事例から学ぶ。

- 2) 研究発表は内容を重視し、先端的な発表や実践的な報告を広く受け入れるが、それに加えて、従来の「講演と質疑応答」という形式にとらわれずに、より会員が多くの情報を得られる催しになるように検討を続ける。例えば、「専門分野の情報提供」や「現在持っている問題意識の説明」を行い、それを受けて「その場でモデリングを交えながらの議論を行う」などの、よりインタラクティブな研究会を開催する。

モデリング (基礎、効用、手順など) の教示。

海外における動向を理解し、JSD の活動を展開する上で参考にする。

(3) 成長指針

既存会員と新規会員に対する 2005 年度のサービスを 100 ポイントとする。

2006 年度の事業容量 (各枠の合計点) と配分 (各枠の配点) を以下に示す。

資源配分 (%)

	既存会員	新規会員
既存サービス	1 - 40	1 - 10
新規サービス	1 - 20 2 - 20	2 - 10

SD に対して強い関心を有しているが、モデリング技術に未習熟な者に対して、モデリングの方法について助言を与えることにより、モデルを使って問題解決をすることができる会員の育成を図る。

今年度目標値など 参加会員自身のスキルレベル、満足度の測定。

JSD 研究会の新会員参加人数 / 参加会員 : 5 名 / 25 名

JSD 研究会で取り上げるテーマ数 : 2 件

(4) 事業内容

第 3 回以降は、会員が現在行っている専門分野における最新の研究成果の発表を主体にした研究会を数回、非会員又は新規会員の専門分野についての研究発表及び同発表により示された問題についての参加者間での討論を主体とする研究会を数回開催する。

スケジュール

- 第1回 5月13日 ホセ・マチューカ教授による講演
第2回 9月30日 第24回 SDS 国際会議参加報告・研究会
第3回以降 11月、1月 会員のニーズを満たすようなテーマについての好事例から学ぶ。研究会、研究成果の発表を目的とする研究会。

計画中の研究会の予定を次の表に示す。

事業戦略項目	5月	7月	9月	11月	1月	-
1 - SD活用活動に対する検討と相互研鑽		募集		11/18	1/27	
1 - 会員ニーズへの好事例紹介						
2 - モデリング(基礎、効用、手順など)						
2 - 海外における動向理解	5/13		9/30			
その他 研究成果の発表など						随時

(5) 予算

50,000円

JSD研究会(全国区)

(1) 担当

和泉潤、近藤史人、山口薫

(2) 事業目的

西日本におけるシステム・ダイナミックスの行政・企業経営分野への活用に関する普及を目的として開催する。

(3) 事業内容

以下の研究会を開催する。

期日 : 2006年11月25日(土) 10:30~17:00

場所 : 同志社大学ビジネススクール

参加者 : 50名

運営体制 : JSDと同志社ビジネススクール・システムダイナミックスグループ(DBS・SDG)との共催で開催する。

JSD研究会(地方担当)と同志社BS-SDGのメンバーが、山口薫理事を委員長とした運営委員会を構成し、準備と運営に当たる。

その他 : 会場ではJSDへの入会案内を配布し、JSDへの入会を促す。

(4) 予算

50,000円

5.1.2 学会誌の発行

(1) 担当

内野明、海老根敦子、大賀英史、末武透、松本憲洋、明神知、森田道也

(2) 事業戦略

既発行の学会誌は5号である。JSDでは設立メンバーが既に学会誌の発行を計画しており、当初は論文集を目指していたようである。しかし、会員数100人程度のグループが、定期的に査読論文だけで論文集を発行することは現実的でなく、第2号を発行する段階で既に頓挫し、論文募集に長期間を必要とした。その結果、SD分野では多い応用研究論文の一部については、発行時に既に色あせたものになっていた。以上の経緯を配慮して、第3号以降は査読論文とフォーラム等での発表論文で、学会誌を構成し、定期発行を心がけた。

さて、学会誌の性格を創刊時の方針からどのように変更するかについて十分に話し決定する必要がある。しかし、その結論は、会員数や国内普及状況によって大きく左右されるので、先行きが不透明な現時点で最終方向を決定するのは拙速と判断

する。

したがって、今年度発行予定の第 6 号についても、論文集を目指した創刊号の姿勢にこだわらず、3号以降の現実的な方針を踏襲するものとする。

(3) 事業内容

発行回数：1回/年

発行時期：2007年5月19日(総会開催予定日)

内容：査読論文、発表論文、2006年度研究発表会プロシーディングス、その他

ページ数：150ページ

発行数：300冊

販売価格：2,500円/冊

(4) 予算

250,000円

(5) スケジュール

出版委員会構成：12月初旬に学会誌担当理事で構成する。

論文募集開始：12月初旬

(6) 編集委員会

編集委員(若干名)と査読委員(若干名)を選任し、2007年1月にMLにより公示する。

5.1.3 研究分科会の活動促進

(1) 担当

全役員

(2) 目標と活動方針

3つの研究分科会が活動することを目指す。

研究分科会の活動に参加して、SDに関する実用的な価値を理解することにより、JSDに入会するきっかけとなることを期待する。

そのために、初年度に限り JSD 会員以外も研究分科会のメンバーとして登録して活動できる制度を導入する。

JSD 会員以外の登録については、研究分科会の主査の管理下において実施する。

(3) 予算

50,000円

5.1.4 総会/フォーラム/シンポジウムの開催

(1) 担当

総務担当理事、

理事(事務局担当：小池昇司、近藤史人、蓮尾克彦、明神知、渡部淳一)

(2) 2007年度総会

期日：2007年5月19日(土) 16時30分~17時

場所：学習院大学

(3) 2006年度研究発表会

期日：2007年5月19日(土) 10時~16時30分

場所：学習院大学

テーマ：「内部統制とシステム・ダイナミクス」

担当研究分科会：BPD研究分科会、DSM研究分科会

スケジュール：準備委員会構成：2006年11月

論文募集開始：2006年12月

(4) 予算

50,000円

5.1.5 System Dynamics Society などでの国際交流の促進

(1) 担当

高橋 裕

(2) 海外から来日するシステム・ダイナミクス研究者との交流

海外からのシステム・ダイナミクス研究者の来日の知らせが国際担当理事に届いた際は、理事会に報告し、可能であれば研究会の開催を検討する。

(3) SDS 国際大会

本年度は国際担当理事が国際大会(オランダ Radboud University Nijmegen、7月23日~27日)に参加するので、現地で日本支部に関する問合せがあれば対応する。

また、国際大会では今年度初めて各国支部のポスターセッションが設けられているので、日本支部の活動状況を報告する。

9月に開催するJSD研究会(本部地区)において、国際大会の出席報告を行う。

5.1.6 SDの普及のためのWeb公開・講習会など

(1) 担当

全役員

(2) 活動方針

2006年4月1日に開催した総会記念討論会の記録「日本のシステム・ダイナミクス教育の行方は？」を簡易印刷し、SDに関係する分野に広く配布する。

それとともに、JSDのホームページでも公開し、SDの教育面と実用面での可能性を広く訴える。

(3) 予算

100,000円

5.1.7 運営体制

(1) 2006年度JSD理事会のミッション

「JSD理事会は、システム・ダイナミクスに関して会員に役立つ事業に取り組み、システム・ダイナミクスの普及を図ることにより、日本社会に貢献することを目指します」

(2) 理事会運営体制

会長：森田道也

副会長(会長補佐): 山内 昭

総務担当理事(Executive Director): 松本憲洋

国際担当理事(International Society Liaison): 高橋 裕

JSD研究会(本部): 小池昇司、蓮尾克彦、高橋 裕、渡部淳一

JSD研究会(地方): 和泉 潤、近藤史人、山口 薫

JSD学会誌: 内野明、海老根敦子、大賀英史、末武透、松本憲洋、明神知、森田道也

事務局: 松本憲洋(事務局長)

上原拓郎(アドバイザー)、小池昇司(名簿管理)、近藤史人(HP管理)

蓮尾克彦(会計)、明神知(ML管理)、渡部淳一(JSD研究会連絡)

5.2 2006年度予算案

(2006年4月1日～2007年3月31日)

	2005年度	2006年度
収入の部		
前期繰越金	<u>1,516,383</u>	<u>1,841,123</u>
個人会費	650,000	550,000
賛助会費	100,000	100,000
出版物売上	30,000	20,000
雑収入	<u>10,000</u>	<u>0</u>
当期収入合計	790,000	670,000
収入の部合計	<u>2,306,383</u>	<u>2,511,123</u>
支出の部		
通信費	100,000	100,000
印刷費	50,000	150,000
テープ起こし	0	75,000
事務用品費	10,000	10,000
講師謝金	40,000	70,000
交通費	10,000	10,000
雑費	30,000	30,000
会議費	0	20,000
本部研究会補助費	70,000	50,000
地方研究会補助費	50,000	50,000
研究分科会補助費	150,000	50,000
アルバイト謝金	50,000	20,000
学会誌印刷費	400,000	250,000
前年度未処理分	6,500	0
事務所賃貸料	<u>24,000</u>	<u>30,000</u>
当期支払合計	990,500	915,000
次期繰り越し	<u>1,315,883</u>	<u>1,596,123</u>
現金残高		
預金残高		
未払い金		
支出の部合計	<u>2,306,383</u>	<u>2,511,123</u>